

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会
	課名	スポーツ文化課
	係名	文化係
	記入者	
	電話(内線)	611

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		重要無形文化財本場結城紬伝承事業				(3) 事業の 優先度		A									
(4) 総合計画での位置づけ						(6) 事業主体			団体												
① 事業の区分		主要事業						(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		一般事業費(ソフト事業)									
② 施策コード		35102		(総合計画掲載ページ)		99				ページ		会計区分		一般会計							
基本目標(政策)		3		歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)						財源区分		国庫補助									
基本施策		5		つちかわれた技術を継承する伝統産業の振興(伝統産業)						予算科目		款		項		目					
施策		伝統工芸の保存・伝承								予算書上の											
施策内容		本場結城紬の保存・伝承								事業名称		(予算書		ページに掲載)							
(5) 事業期間		開始				23		年		10		月から		(8) 事務分類		自治事務					
		終了						年				月まで(				力年)		根拠法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
重要無形文化財結城紬 本場結城紬技術保持者及び技術伝承者	本場結城紬技術保持者の後継者を育成しながら、技術保持者も技術向上に努め、技術の保存を行う。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
・伝承者養成事業 保持会員が後継者である伝承者にマンツーマンで指導を行い、年度内に保持者・伝承者ともに反物を制作する。 ・研修生養成事業 結城紬制作経験の少ない研修生を募集し、保持会員が交代で糸つむぎ・機織りの基礎を指導する。 ・講習会及び資料収集 一般向けの糸とり講習会の開催や、資料収集整理に努め、伝統技術のPR及び保存を行う。 なお、成果品は展示や貸出を行い、広くPRを行う。	重要無形文化財結城紬の伝統技術を保存するため実施する。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
結城紬は、昭和31年に国の重要無形文化財の指定を受け、日本を代表する伝統工芸の一つとして高い評価を受けてきた。しかし、昨今の生活様式の変化や景気不振、さらに後継者不足による生産者の減少により、生産量は最盛期の2割以下に落ち込むなど、その伝承・保存が危惧されている。重要無形文化財結城紬伝承事業では、結城紬の伝承・保存を目的とし、技術者の養成に努めている。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映						
実施計画												
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）						
事業内容		26 年度		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		
(1) 事務事業費の コスト	事業費											
	合計											
	財源	国庫支出金 (千円)										
県支出金 (千円)												
地方債 (千円)												
その他特定財源 (千円)												
一般財源 (千円)												
合計 (千円)												
補助・起債制度名		国宝重要無形文化財等保存整備費補助金		国宝重要無形文化財等保存整備費補助金								

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	技術保持者・伝承者による反物制作	目標値	反		12	12	12	12
		実績(見込)値		12	12			
	講習会等	目標値	回		10	10	10	10
		実績(見込)値		6	10			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	本場結城紬技術保持会会員数	目標値	人		97	98	99	100
		実績(見込)値		96	97	98	99	100
		達成率		96.0 %	97.0 %			
		目標値						
		実績(見込)値						
		達成率	%	%				
5. 事業評価								
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	重要無形文化財として、その伝統的な制作技術は後世に残す必要があり、後継者の育成は急務である。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	国指定の文化財として法的な問題があり、行政が行うべきである。				
	手段の妥当性	A	妥当である	技術者の高齢化にともない本場結城紬技術保持会の会員数は減少傾向にあるが、後継者の数は増えている。				
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	反物生産数の減少にともない、原料や制作器具の購入が難しくなっている。				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	おおむね幅広く便益を提供している。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	本場結城紬技術保持会員の減少は避けられないが、平成26年度は新しく機織り研修生1名、糸つむぎ研修生4名育成するなど、後継者は着実に増加している。				
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	後継者育成は順調であるが、後継者の就職先の確保などが課題となっている。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。								
後継者の育成は機織り、糸つむぎの分野で順調に行われているが、技術保持者と認められるまでに年数を要するため、本場結城紬技術保持会の会員数は減少傾向にある。また、緋くりの分野は後継者育成が進んでおらず、今後は緋くりの後継者育成を計画する必要がある。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？								
後継者を育成するだけでなく、後継者の就職先の確保を行う。緋くりの後継者育成を新しく実施する。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		27年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）		結城紬は、昭和31年に国の重要無形文化財の指定を受け、さらには平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録をされ、日本を代表する伝統工芸の一つとして高い評価を受けている。重要無形文化財結城紬伝承事業は、結城紬の伝承・保存を目的とし、技術者の養成に努めている。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				